

費用内訳書

課長	係長	照査	設計

令和 8年度

設計年月 令和 8年 6月

工期 令和 9年 1月29日

作業名 自家発電設備点検整備（洛西配水場）

作業場所 京都市西京区大枝東長町 3 - 6 1

洛西配水場

作業費金 円

作業価格 円

消費税及び

地方消費税相当額 円

内 訳 書 (総 括)

作業名 自家発電設備点検整備 (洛西配水場)								
費目	工種	種別	単位	数量	金額	数量増減	金額増減	摘要
作業費								
	機械設備工							
		直接費	式	1				
		間接費	式	1				
		諸経費	式	1				
作業価格								
消費税及び 地方消費税 相当額			式	1				
作業費計								

内 訳 書

(1 / 3)

作業名	自家発電設備点検整備（洛西配水場）								
費目・種別	細 別	形状・寸法	単位	数 量	単 価	金 額	数量増減	金 額 増 減	摘 要
作業費									
直接費									
	材料費		式	1					
	小 計								(直接材料費)
	補助材料費		式	1					
	小 計								(補助材料費)
	計								[材料費]
	労務費		式	1					
	計								[労務費]

内 訳 書

(2 / 3)

作業名	自家発電設備点検整備（洛西配水場）								
費目・種別	細 別	形状・寸法	単位	数 量	単 価	金 額	数量増減	金 額 増 減	摘 要
	直接費計								直接費
間接費									
	産業廃棄物運搬及び処分費		式	1					
	間接費計								間接費
計（請負原価）									
諸経費									
	諸経費		式	1					
	諸経費計								諸経費
作業価格									

内 訳 書

(3 / 3)

作業名	自家発電設備点検整備（洛西配水場）								
費目・種別	細 別	形状・寸法	単位	数 量	単 価	金 額	数量増減	金 額 増 減	摘 要
消費税及び 地方消費税 相当額			式	1					
作業費計									

自家発電設備点検整備

(洛西配水場)

特記仕様書

京都市上下水道局

建設リサイクル法	
<input type="checkbox"/> 適用	<input checked="" type="checkbox"/> 適用外

1 共通事項

本特記仕様書に記載のない事項については、令和7年12月版の水道部施設課作業一般仕様書（委託）による。

なお、作業一般仕様書（委託）は水道部施設課で配布する。

2 作業概要

本作業は、商用電源の停電時に洛西配水場の運営に支障なく発電が行えるよう、非常用自家発電設備の点検整備を行うものである。

3 作業場所

京都市西京区大枝東長町3番地61 洛西配水場

4 完成期限

令和9年1月29日とする。

5 設備仕様

設備名称	非常用ガスタービン発電設備 AT900形機関×625kVA
製造番号	HI-0057801
設置年月	令和6（2024）年3月

6 主要機器仕様

(1) ガスタービンエンジン

型式	単純開放サイクル1軸式（投入負荷容量 100%） 燃料器形式（単筒型） 減速機型式（遊星歯車一段及び平行平歯車一段）
構造	一段遠心式圧縮機、二段軸流式出力タービン
機体番号	3184
定格出力	588kW
回転速度	主軸 31200min ⁻¹ 、出力軸 1800min ⁻¹
回転方向	左方向（出力側よりエンジンを見て）
空気流量	241m ³ /min（40℃）
圧力比	7：1
起動方式	直流電動機起動方式（DC24V 18kW）
燃料消費率	449g/kWh +5%以下

燃料消費量	276 L/h +5%以下 (A重油比:比重0.85)
潤滑油消費量	0.06 L/h
燃料油	A重油 (JIS K2205 1種1号 内燃機関用)
使用潤滑油	合成基油 (SHELL ASTO500)
調整機	機械油圧式
製造者	ヤンマーパワーテクノロジー株式会社
製造年月	令和6(2024)年3月
基数	1基

(2) ブラシレス交流発電機

型式	NTAKL-SCKE
製造番号	906456A1A
定格出力	625 kVA
極数	4P
回転速度	1800 min ⁻¹
電圧	6600V
定格電流	54.7A
周波数	60Hz
定格力率	遅れ 0.8
定格	連続
相数	3
線数	3
外被	IP20 (保護形)
冷却方式	IC01 (自由通風形)
耐熱クラス	155 (F)
温度上昇限度	固定子: 155 (F) 回転子: 155 (F)
年間運転時間	1000時間
回転方向	反時計方向 (反直結側から見て)
端子引出方向	左側 (反直結側から見て)
製造者	西芝電機株式会社
製造年月	令和6(2024)年2月
台数	1台

(3) 燃料地下タンク

形 式	SF二重殻タンク 7000型 フレコン地下タンク設備
形 状 寸 法	$\phi 1500\text{mm}$ (内径) $\times 4582\text{mm}$ (内寸)
本 体 材 質	SS400 (内板 鋼板及び鋼材共)
有 効 容 量	7000L
製 造 者	株式会社 チカタン
設 置 年 月	令和6 (2024) 年3月
台 数	1台

(4) 燃料小出槽

形 状 寸 法	1800mm \times 1000mm \times 1252mm
本 体 材 質	SS400
有 効 容 量	1950L
本 体 重 量	490kg
製 造 者	ヤンマーパワーテクノロジー株式会社
設 置 年 月	令和6 (2024) 年3月
台 数	1台

(5) 燃料移送ポンプ

呼 び	1.5kW \times 32mm
型 式	LGB-32V
製 造 番 号	No.1 : A2Q9291-1、No.2 : A2Q9291-2
口 径	32mm (1 1/4B)
吐 出 量	80L/min
圧 力	吸入圧力 : -0.05MPa 吐出圧力 : 0.25MPa
全 揚 程	0.3MPa
毎 分 回 転 速 度	1800min ⁻¹
製 造 者	大晃機械工業株式会社
電 動 機	三相誘導電動機、1.5kW \times 4P、60Hz、1,800min ⁻¹
製 造 年 月	令和6 (2024) 年2月
台 数	2台

(6) 燃料返送ポンプ

呼び	1.5 kW×32 mm
型式	LGB-32V
製造番号	A2Q9291-3
口径	32 mm (1 1/4 B)
吐出量	80 L/min
圧力	吸入圧力：-0.05 MPa 吐出圧力：0.25 MPa
全揚程	0.3 MPa
毎分回転速度	1800 min ⁻¹
製造者	大晃機械工業株式会社
電動機	三相誘導電動機、1.5 kW×4P、60Hz、1,800 min ⁻¹
製造年月	令和6(2024)年2月
台数	1台

(7) 換気ファン

形名	EWG-707QJTA2-60
電源	3相 200/220V
羽根形式	70 cm 金属製軸流羽根
電動機形式	全閉形3相誘導電動機 6極 H種
換気量	197 m ³ /min
製造者	三菱電機株式会社
台数	1台

(8) 給気ファン

形名	EWG-707QJTA2-60
電源	3相 200/220V
羽根形式	70 cm 金属製軸流羽根
電動機形式	全閉形3相誘導電動機 6極 E種
換気量	414 m ³ /min
製造者	三菱電機株式会社
台数	2台

7 作業範囲

対象機器について、必要な部品の交換、点検整備、外観点検、必要な試験及び試運転を行い本設備の良好な運転を確認するまでの全てとする。

8 作業内容

当該自家発電設備の主要機器について、次の作業を行うこと。

(1) 部品交換

「別紙1（交換部品一覧）」に記載の部品を交換すること。

(2) 点検整備

「別紙2（法令に基づく一般点検整備表）」記載のB点検整備（1年毎）（外観点検、機器点検及び点火栓を始めとする機関補機の作動点検を中心とした点検の他に燃焼機の分解点検保守運転を行い、総合点検を行う。）を実施すること。

(3) 非常停止試験及び保安警報装置試験

「別紙3（非常停止試験及び保安警報装置試験）」のとおり試験を行うこと。

(4) 試運転

点検整備作業終了後、監督員立会のうえで、試運転を行い、設備に異常等のないことを確認すること。

9 その他

(1) 本作業に当たっては、監督員と十分な打合せを行うこと。

(2) 本特記仕様書等に関して疑義が生じた場合は、監督員と協議のうえ決定すること。

(3) 本作業に当たって、当該設備又は機器に異常がある場合は、速やかに監督員に報告し、指示を受けること。

なお、軽微なものについては受注者の負担で補修または取替えを行うこと。

(4) 本作業にあたっては、当該機器の機能及び精度を満足できるよう十分な知識及び技術を有する技術者に行わせること。

(5) 作業終了後は後片付け及び清掃を十分に行うこと。また、一時的に撤去等を行ったものについては原則として作業終了ごとに都度、現状復帰するものとする。

なお、作業の工程上、やむを得ず撤去等を行った状態を長時間維持する場合は事前に監督員の承諾を受け、必要な安全対策及び養生を行うこと。

(6) 本特記仕様書に記載のない事項についても必要と思われることは監督員と協議のうえ、本作業の意図する機能又は性能を十分満足するように施工すること。

交換部品一覧

名 称	材質・形状寸法	数量	単位	備考
パッキン	燃料機ガイド	1	個	
バネ座金	10	20	個	
ボルト	耐熱植込み	3	個	
ナット	M8	3	個	
Oリング	4CG30.0	10	個	
Oリング	ミストリザーブフタ	1	個	
ボルト	M10×35	16	個	
パッキン・Oリング類		1	式	

別紙 2

AT270~AT2900形

A点検:半年毎 E点検:15年毎
 B点検:1年毎 起動回数1,000回又は
 C点検:3年毎 運転時間1,000時間毎
 D点検:6年毎 30年設備更新

法令等に基づく一般点検整備表 (1/2)

区分	点検部	点検項目No.	点検整備項目 (内容)	点検種別					備考
				A点検	B点検	C点検	D点検	E点検	
自家発電装置点検	設置状況	1	周囲の状況、区画、水の浸透、換気、照明、標識および表示等に点検上、操作上及び告示基準上問題はないか、換気口の開口部に問題はないか、または機械換気装置は正常に運転されるかを点検する。	○	○	○	○	○	告示：消防庁告示第二号(平成14年)
	パッケージ	2	表面、扉及び内装等に変形損傷、腐食等の異常がないか点検する。	○	○	○	○	○	屋外仕様は雨水侵入がないかも点検する
		3	吸気通路とパッケージ上面に異物のないことを確認する。	○	○	○	○	○	
	ガスタービン	4	エンジン本体及び付属機器に変形、損傷、脱落、腐食等の異常がないか点検する。	○	○	○	○	○	
		5	ボルト・ナット等の緩みがないか点検し、必要があれば増締めする。	○	○	○	○	○	
		6	燃料系統、潤滑油系統、起動空気系統に漏れがないことを点検する。	○	○	○	○	○	
		7	出力端子及び保護カバーに変形、腐食、緩み等異常のないことを点検する。	○	○	○	○	○	
	発電機	8	発電機巻線部及び導電部周囲に塵埃、油脂等による汚損がないかと乾燥状態等を目視点検する。	○	○	○	○	○	
		発電装置	9	コモンベッド上、減速機の基礎ボルト、カップリングの取付ボルト、発電機の基礎ボルト等に緩みがないことを点検し必要があれば増締めする。	○	○	○	○	○
	10		エンジン潤滑油量を点検し、必要があれば補油する。	○	○	○	○	○	補充分はお客様のご負担となります
	11		発電機軸受グリスの充填状況を点検し、必要があれば充填する。	○	○	○	○	○	
	12		手動にて起動し各種データを計測し、性能を点検、記録する。	○	○	○	○	○	保守点検銘板にしたがって点検を実施してください
	13		手動にて停止し停止時間等を計測し、性能を点検、記録する。	○	○	○	○	○	保守点検銘板にしたがって点検を実施してください
	起動装置	14	蓄電池、蓄電池盤の外観を点検する。	○	○	○	○	○	保守点検銘板にしたがって点検を実施してください
		15	電圧を測定する。(全体と各セル毎)	○	○	○	○	○	
		16	空気槽圧力を測定する。(空気始動方式の場合)	○	○	○	○	○	
		17	蓄電池の各セルの液面及び比重を計測する。(MSEは除く)	○	○	○	○	○	
		18	端子の増締めを行う。	○	○	○	○	○	
		19	蓄電池の充電装置を手動にして、均等、浮動の切替を行い点検する。(MSEは除く)	○	○	○	○	○	充電電圧・電流値をよみとる
	制御装置	20	周囲の状況、外形、電源表示灯各スイッチ及び遮断器等に変形、損傷、焼損等、異常のないことを点検する。	○	○	○	○	○	
		21	各コネクター類に緩みがないか点検し、必要があれば増締めする。	○	○	○	○	○	
		22	制御用蓄電池電圧及び外形に異常のないことを点検する。	○	○	○	○	○	
		23	手動にて遮断器の動作を確認する。	○	○	○	○	○	但し、他機器に影響を与える恐れがある場合は、別途協議の上決定する
		24	補機用ブレーカの開閉機能が正常であることを点検する。	○	○	○	○	○	
		25	各ヒューズ類の容量の確認、熔断の有無等を点検し、必要があれば補充する。	○	○	○	○	○	補充分はお客様のご負担となります
		26	過電流、過電圧継電器を接点短絡させ、遮断器の表示、警報等の点検をする。	○	○	○	○	○	
		27	軽故障、重故障の表示、警報を接点短絡により点検する。	○	○	○	○	○	
		28	蓄電池の充電装置を手動にして均等、浮動の切替を行わない点検する。(MSEは除く)	○	○	○	○	○	

AT270～AT2900形

A点検:半年毎 E点検:15年毎
 B点検:1年毎 起動回数1,000回又は
 C点検:3年毎 運転時間1,000時間毎
 D点検:6年毎 30年設備更新

法令等に基づく一般点検整備表 (2/2)

区分	点検部	点検項目No.	点検整備項目 (内容)	点検種別					備考
				A点検	B点検	C点検	D点検	E点検	
機 器 点 検	制御装置	29	電圧を計測する。 蓄電池の液面、比重を計測する。(MSEは除く)	○	○	○	○	○	
		30	端子のゆるみを点検し、必要があれば増締めする。	○	○	○	○	○	
	計器類	31	パッケージ内および発電機盤面の計器類に変形、損傷、著しい腐食等がなく、指示のゼロ点に異常のないことを点検し必要であれば調整する。	○	○	○	○	○	
		燃料タンク	32	燃料タンクに変形、損傷、漏れ等、異常がないことを点検する。	○	○	○	○	○
	33		油量、レベル計に異常がなく、所定の燃料が使用されていることを点検する。	○	○	○	○	○	
	34		A重油ヒータ装備仕様においては、ヒータ表面の洗浄とヒータの気密試験(50kPa)を行う。			○	○	○	別途工事とする
	排気装置(消音器)	35	周囲の状況、外形上の変形、貫通部の漏れによる汚損等、異常のないことを点検する。	○	○	○	○	○	
		36	ドレンバルブを開放し、内部の水分を抜き取る。		○	○	○	○	
	配管及び諸弁	37	配管や諸弁に変形、損傷、支持金具のゆるみ、漏れ等がなく、操作上の誤り等がないことを点検する。	○	○	○	○	○	
	結線接続	38	主回路、補機回路、制御ケーブルコネクタに端子の緩みやひび等、異常がないこと点検する。	○	○	○	○	○	
	接地	39	接地線の切断、接続部のボルトの緩み損傷等がないことを点検する。	○	○	○	○	○	
	耐震処置	40	下記、機器の基礎ボルト、ナットに変形、損傷、緩み等異常のないことを点検し、必要があれば増締めする。 1. 発電装置 2. 制御装置(盤関係) 3. 燃料タンク(含、架台) 4. 各伸縮管の接手部	○	○	○	○	○	
	予備品等	41	予備品等の使用状況及び補充について打合せを し必要があれば補充する。	○	○	○	○	○	補充分はお客さまの ご負担となります
保守運転	42	1. 「試験運転モード」にて起動し、所定のタイムスケジュール、シーケンス通り自動起動し、かつ40秒以内に起動動作が完了することを確認する。 2. 無負荷で10～15分間運転し、漏油、異臭、不規則音、異常な振動等ないことを確認する。 3. 運転中の点検終了後、運転モード切換スイッチを「自動」に切り換え、所定のタイムスケジュール、シーケンス通り自動停止動作が完了することを確認する。	○	○	○	○	○	3項は自動モードが設定されている場合です	
総 合 点 検	接地抵抗	43	ガスタービン発電装置用の単独接地でかつ、計測するのが簡易な場合のみ接地抵抗を測定し異常がないことを点検する。		○	○	○	○	
	絶縁抵抗	44	主回路一括で絶縁抵抗を計測し、異常のないことを確認する。		○	○	○	○	
	起動装置	45	起動時の蓄電池電圧降下を計測し、異常のないことを確認する。		○	○	○	○	
	保安装置	46	各装置の検出部を実作動させ下記の保安装置等の作動が正常であることを点検する。 1. 潤滑油圧力低下(実作動) 2. 排気温度上昇(模擬信号による) 3. 非常停止(実作動) 4. 過速度(実作動もしくは模擬信号)	○	○	○	○	○	A点検では各検出部を作動または短絡させ表示及び警報が正常であることを確認

AT270～AT2900形

A点検:半年毎 E点検:15年毎
 B点検:1年毎 起動回数1,000回又は
 C点検:3年毎 運転時間1,000時間毎
 D点検:6年毎 30年設備更新

標準点検整備表 1/4

区分	点検部		点検項目No.	点検整備項目 (内容)	点検種別					備考
					A点検	B点検	C点検	D点検	E点検	
総合点検	負荷運転	運転状況	47	実負荷運転あるいは無負荷運転は、機関性能を安定化するために連続20分以上実施し各運転諸元を計測すると共に性能等に異常のないことを点検する。		○	○	○	○	
		換気	48	連続運転中、発電機室及びパッケージ内の温度を計測することにより、給排気の換気状況が正常であることを点検する。		○	○	○	○	
燃料系統	燃料第1フィルタ		49	取外し点検清掃		○	○	○	○	
	燃料フィルタ		50	エレメント交換			○	○	○	
	フレキチューブ		51	交換					○	
	燃料フィードポンプ		52	作動点検	○	○	○	○	○	
			53	カーボンブラシの点検				○		要すれば交換
	燃料配管ヒータ		54	交換					○	
			55	断線・保温材の破損点検	○	○	○	○	○	6年毎に交換 絶縁抵抗10MΩ以上のこと
	燃料ポンプ		56	駆動軸点検					○	
			57	交換					○	
	燃料調量弁		58	着火流量(スタートフロー)計測		○	○	○	○	
			59	工場整備または交換					○	工場整備の場合は消耗品交換
	燃料遮断弁		60	作動点検	○	○	○	○	○	
			61	ピストン、ブッシュ洗浄点検			○			燃料漏れ無きこと
			62	交換				○	○	ラインフィルタ・逆止弁含む
	燃料逃し弁		63	作動点検	○	○	○	○	○	
			64	ピストン、ブッシュ洗浄点検				○		燃料漏れ無きこと
			65	交換					○	
	フローデバイダ		66	点検清掃			○	○		AT1200/1800のみ
			67	交換					○	AT1200/1800のみ
	燃料ポンプ安全弁		68	啓開圧力計測					○	要すれば交換
69			交換					○		
燃料噴射弁		70	抜き出し外観点検	○	○	○	○	○	カーボン付着無きこと	
燃料噴射弁ノズル		71	分解洗浄			○	○	○	燃料漏れ無きこと	
		72	交換					○	○	
燃料噴射弁エアスワラ		73	分解洗浄・カーボン落し			○	○	○	○	
		74	交換					○	○	

AT270～AT2900形

A点検:半年毎 E点検:15年毎
 B点検:1年毎 起動回数1,000回又は
 C点検:3年毎 運転時間1,000時間毎
 D点検:6年毎 30年設備更新

標準点検整備表 (2/4)

区分	点検部	点検項目No.	点検整備項目 (内容)	点検種別					備考
				A点検	B点検	C点検	D点検	E点検	
燃料系	燃焼器ライナ	75	取外し点検清掃		○	○	○		
		76	交換					○	
	点火栓	77	取外し点検清掃及び作動点検	○	○	○	○	○	作動点検はエキサイタとともに実施する
		78	交換					○	○
	エキサイタ	79	作動点検	○	○	○	○	○	点火栓とともに実施する
		80	交換					○	○
	エアアシストポンプおよびエアアシストポンプリレー	81	作動点検	○	○	○	○	○	
82		交換						○	
エアアシストポンプ出口スイング逆止弁	83	分解、清掃				○			
潤滑油系	潤滑油フィルタ	84	エレメント交換			○	○	○	異物無きこと
	潤滑油ストレーナ	85	内部点検清掃					○	
	ブリーザ	86	エレメント点検		○	○	○		
		87	エレメント交換						○
	潤滑油クーラ	88	空気側清掃		○	○	○	○	
	潤滑油	89	量の確認、分析、および交換			○	○	○	3年で必ず分析※ 要すれば交換 6年毎およびE点検時に交換
	フレキチューブ	90	交換						9年毎に交換
潤滑油ポンプ	91	分解点検					○		
軸系	出力軸、カップリング	92	芯振れ・面振れ点検			○	○	○	
		93	カップリングゴム外観点検			○	○	○	
		94	カップリングゴム分解交換						9年毎に交換
防振系	防振ゴム	95	共通台床の振動計測による劣化点検				○		D点検においては振動計測値を参考とし、要すれば交換。9年で交換推奨
起動系	スタータ	96	作動点検	○	○	○	○	○	
		97	カーボンブラシ点検		○				
		98	ピニオンギヤ点検およびグリスアップ			○	○	○	
		99	分解・点検			○	○		
		100	交換					○	

※潤滑油管理基準: 動粘度(40℃) 23.95～33.26mm²/S
 全酸化値2mgKOH/g以下
 水分 2000ppm以下
 汚染度(重量法) 10mg/100ml以下
 汚染度(計測法) NAS10等級以下

AT270～AT2900形

A点検:半年毎 E点検:15年毎
 B点検:1年毎 起動回数1,000回又は
 C点検:3年毎 運転時間1,000時間毎
 D点検:6年毎 30年設備更新

標準点検整備表 4/4

区分	点検部	点検項目No.	点検整備項目 (内容)	点検種別					備考	
				A点検	B点検	C点検	D点検	E点検		
制御	T A C - R	134	点検・清掃		○	○	○	○		
		135	仕組交換					6年毎に交換		
	T A C 2	136	点検・清掃		○	○	○	○		
		137	仕組交換					6年毎に交換		
系統	DCコンバータ アルミ電解コンデンサ サーミアブソーバ	138	出力電圧確認	○	○	○	○	○		
		139	交換					12年毎に交換		
動力発生伝達部	圧縮インペラ ディフューザ タービン・ノズル タービン・ロータ スクロール及び 取付ボルト ヒートシールド 及び取付ボルト ハイスピードビニオン ベアリング 潤滑油フィードパイプ (接合部)	140	ファイバースコープ等による健全性点検			○	○		No. 140: 孔食有無点検を含む	
		141				○	○			
		142				○	○			
		143				○	○			
		144			○	○				
		145			○	○				
		146					○	○	○	No. 146: AT900系は クイルシャフトサンギヤ 歯車とする
		147					○	○		No. 147: AT600系・AT900系のみ
		148		振動計測(タービンロータ1次振動)		○	○	○	○	無負荷20分後
		149		交換または工場整備					○	
減速機部	150	潤滑油吸入フィルタを含む内部点検清掃					○			
	151	ファイバースコープ等による健全性点検			○	○	○			
	152	工場整備					○	別途工事とする		
	153	ドレン抜き		○	○	○	○			
その他	排気装置 (消音器)	154	内部点検			○	○	○		
		155	外部点検(発錆、変形、亀裂など点検)			○	○	○		
		156	コーキング部点検	○	○	○	○	○	屋外仕様	
機付計器類	157	圧縮機圧力計、潤滑油圧力計、潤滑油温度計の交換				○	○			
総合試験	起動容量試験 振動試験 機関性能試験 実停電試験	158	充電無しで3回起動		○	○	○	○	別途打合せによる	
		159	振動計測		○	○	○	○		
		160			○	○	○	○		
		161			○	○	○	○		

付表

非常停止試験及び保安警報装置試験

検査責任者

試験日

天候

温度 °C 湿度 % ta: °C

No.	保護装置種類	設定値	動作値	機関停止	遮断器動作	表示		警報				結果
						現場	遠方	ベル		ブザー		
								現場	遠方	現場	遠方	
1	潤滑油圧力低下	0.17±0.03MPa	MPa									
2	潤滑油温度上昇	200±10°C	°C									
3	過速度	109±1%	%									
4	始動渋滞	38±4秒	秒									
5	非常停止	即										
6	排気温度上昇	580+0.92ta±10°C	°C									
7	排気温度低下	190+ta±10°C	°C									
8	T制御系異常	各種										
9	T制御電源低下	18±1V	V									
10	制御電源断	—										
11	発電機軸受温度高 (機関側)	—										
12	発電機軸受温度高 (反機関側)	—										
13	過電圧	130V										
14	不足電圧	75V										
15	過電流	4A										
16	PLC故障	—										
17	燃料使用量上限	1900ℓ以上										
18	燃料使用量上限予告	1800ℓ以上										
19	AVR異常	—										
20	1回目始動失敗	—										

測定機器	製造者名	型式	製造番号	管理番号
ストップウォッチ				
室内温度計				

非常停止試験及び保安警報装置試験

検査責任者

試験日

天候

温度 °C 湿度 % ta: °C

	保護装置種類	設定値	動作値	機 関 停 止	遮 断 器 動 作	表 示		警 報				結 果
								ベル		ブザー		
						現場	遠方	現場	遠方	現場	遠方	
1	始動用直流電源盤異常	—										
2	燃料小出槽油量異常高	—										
3	燃料小出槽油量異常低	—										
4	自家発燃料槽油量異常高	—										
5	自家発燃料槽油量異常低	—										
6	補機電源主幹MCCB断	—										
7	No. 1燃料移送ポンプ故障	—										
8	No. 2燃料移送ポンプ故障	—										
9	燃料返送ポンプ故障	—										
10	No. 1給気ファン故障	—										
11	No. 2給気ファン故障	—										
12	換気ファン故障	—										
13	パッケージファン故障	—										
14	パッケージ内燃料配管ヒータ故障	—										
15	燃料小出槽ヒータ故障	—										
16	発電機固定子巻線温度高	—										
17	発電機スペースヒータ故障	—										
18	補機制御電源断	—										
19	自家発燃料槽漏洩検知	—										
20												

測定機器	製造者名	型式	製造番号	管理番号
ストップウォッチ				
室内温度計				